

イメージを共有しながら友達と一緒に遊びを楽しむ幼児の育成 —音楽を活用した環境の構成と言葉掛けの工夫を通して—



特別研修員 幼児教育 高野 佳子(幼稚園教諭)



幼児の実態

- 曲に合わせて、自分なりに歌ったり踊ったりすることが好きな幼児が多い。
- 自分なりのイメージをもち、表現することが好きな幼児が多い。
- 言葉で伝えることが苦手だったり、相手の気持ちを受け入れられなかったりするため、友達との遊びが長続きしない。

- ◇自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け入れながら遊ぶようになってほしい。
- ◇遊びのイメージを共有しながら友達と楽しく遊ぶようになってほしい。

教師の願い

実践<5歳児10月> 「音楽会ごっこをしよう」(思い思いの遊びの中で)

手立て①

音楽を活用した環境の構成の工夫

音楽に関わる絵本や写真などの掲示



遊びが展開される場所に提示

音楽会に関する読み聞かせを聞いたり、経験した写真を見たりすることで、音楽会へのイメージを共有することにつながった。

幼児の興味のある、歌・曲の選定



カセットテープとホワイトボード

好きな曲を相談しながらプログラムに書き、遊びのイメージを共有して踊りを楽しんだ。

この曲なら踊れるよ



プログラムを書こうよ



学級での振り返りの場の設定



友達の顔が見える座り方

明日は、衣装を作ろうよ!

そうだね。ビニール袋で作ろう!

その日の遊びを振り返り、他者の意見を聞くことで、明日の遊びのイメージを共有することにつながった。

手立て②

イメージを共有できるような言葉掛けの工夫

イメージを言葉で表現できるような言葉掛け

たいこの音みたい!

どんな音がするの?



手作りの楽器を鳴らす場面

違う音に聞こえるね

ほんとだ!
ぼくのはかみなり音!
一緒に叩いてみようよ

どのような音が出せるか工夫し、言葉で伝え合うことで、イメージを共有しながら一緒に遊んだ。

他者との思いの違いに気付くような言葉掛け

僕はあっちでお店屋さんをやりたいかったんだ

〇〇くんは言いたいことある?

じゃあ、どこでやるか、3人で相談しよう



伝え合う場面

そうだったんだ。何も言わないで一人で行ったから、困ったよ

互いの思いを伝え合うことで相手の気持ちに気付く遊びのイメージを共有することができた。

成果

- 幼児の興味のある歌や曲を、生活や遊びの中で取り入れてきたことで、歌ったり踊ったりする遊びを友達と展開するようになってきた。
- 振り返りの時間に、自分の思いを伝えたり友達の話の話を聞いたりすることで、イメージを共有することができ、翌日の遊びにつながった。
- 互いの思いを伝え合うように援助したことで、自分の思いを伝え、友達の話の話を聞く姿が増え、思いを伝え合いながら遊びを続けるようになった。

課題

- 遊具や材料・曲や絵本などを提示するタイミングを考慮する必要がある。
- 同じ音楽会ごっこでも、それぞれの幼児のイメージが少しずつ違っているので、幼児一人一人のイメージを教師がしっかりと見取り援助していくことが大切である。